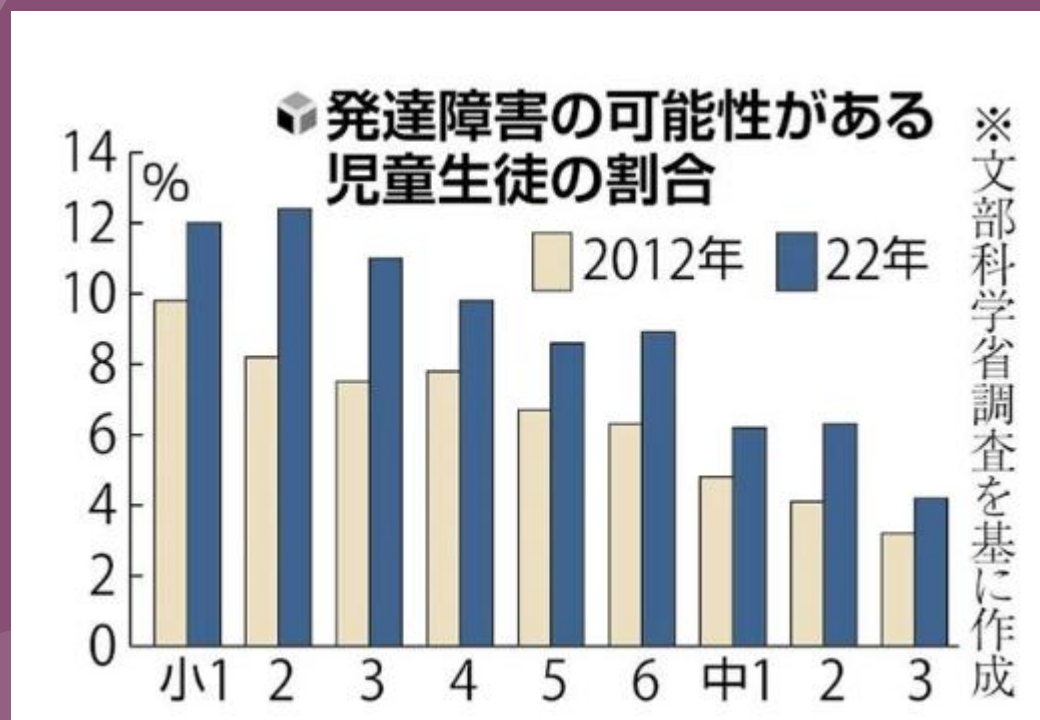


小中学生の8・8%「発達障害の可能性」、 10年前から2・3ポイント増…理解進み 顕在化:読売新聞2022/12/13



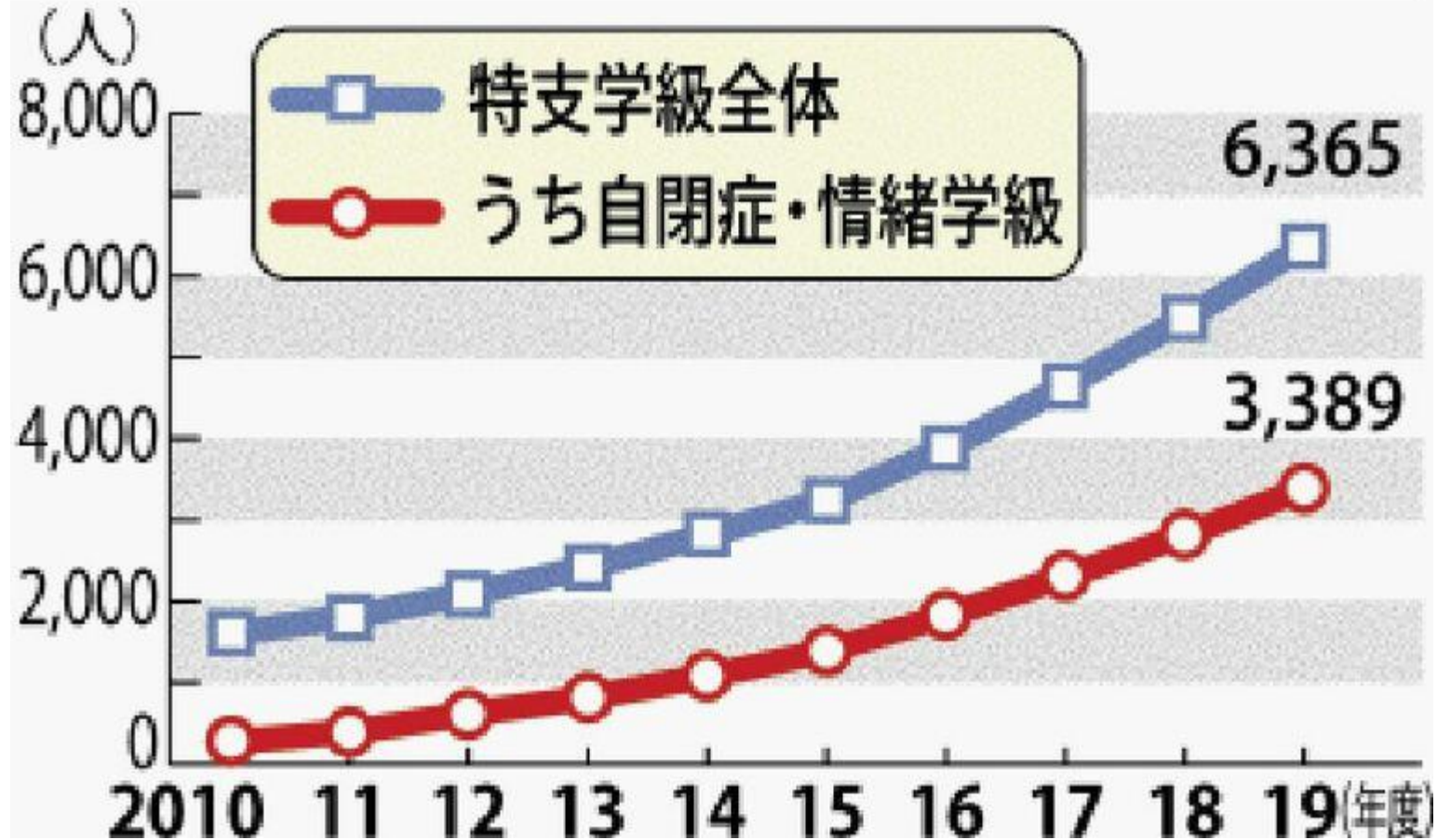
◆ **発達障害** = 先天的な脳機能の障害が原因とされる。知的発達に遅れはないものの読み書きや計算が難しい「学習障害（LD）」、気が散りやすい「注意欠陥・多動性障害（ADHD）」、対人関係を築くのが苦手な「自閉スペクトラム症（ASD）」などがある。

沖縄の小中学校 情緒学級生、10年で12倍 発達障がいへの理解進む 一時的行動で判断の懸念も

沖縄タイムス 2020年8月21日

県内公立小中学校の「自閉症・情緒障がい特別支援学級（以下、情緒学級）」に通う児童生徒が2019年度に3,389人となり、10年度の272人から10年間で12・5倍に急増した。全国平均も2・4倍と伸びているが、沖縄が突出している。

県内小中学校の特別支援学級の在籍者数



自閉症・情緒障害の分類と自閉症スペクトラム障害等発達障害は異なるのか？

自閉症・情緒障害と、自閉症スペクトラム障害（ASD）などの発達障害は、分類や定義の背景が異なるため、混同されがちですが、実は目的や文脈によって使い分けられているものです。

1. 自閉症スペクトラム障害（ASD）とは？医学的には「発達障害」の一種で、**神経発達症**に分類されます。DSM-5（米国精神医学会の診断基準）では、社会的コミュニケーションの困難さとこだわり行動・感覚過敏などが特徴。「自閉症」「アスペルガー症候群」などは、現在ではASDに統合されています。

2. 自閉症・情緒障害という分類は？

日本の教育現場（特別支援教育）で使われる分類。文部科学省では「自閉症・情緒障害特別支援学級」などの枠組みで支援。「**自閉症**」は**ASDに該当**し、「**情緒障害**」は心理的要因による不適応状態（場面緘黙、不登校、チックなど）を含む。補足：グレーゾーンや診断の違い医師によって診断名が異なることもあり、ASDと診断されないが支援が必要なケースも教育現場では「**情緒障害**」として支援対象になることがあります。

分類	自閉症スペクトラム障害（ASD）	自閉症・情緒障害
分野	医学（診断）	教育（支援）
定義	神経発達症の一種	発達障害＋心理的要因による不適応
使用場面	医療機関、福祉	学校、教育支援
情緒障害との関係	ASDとは別分類	ASDを含むこともある

※「**情緒障害**」は医学的診断名ではなく、教育・福祉分野で使われる**状態像の表現**です 6

情緒障害と発達障害の違いは？ 情緒障害の症状の具体例も 情緒障害と発達障害の関わり

発達障害は医学的な診断の一つですが、情緒障害という医学的な診断はありません。情緒障害は、特別支援教育の場では「情緒の現れ方が偏っていたり、激しかったりする状態を自分の意思では感情をコントロールできず、学校生活や社会生活に支障となる状態」を示しており、発達障害はその中のタイプの一つとして位置づけられています。

特別支援教育における「情緒障害」の2つのタイプ

特別支援教育の場で「情緒障害」とされる状態は、具体的には2種類のタイプがあります。1つは、ASD（自閉スペクトラム症）などを含む発達障害の特性により、言語発達の遅れや対人関係の形成などが難しく、日常生活に困難を抱えるというもの。もう1つは、心理的な要因などにより日常生活に困難を抱えているというものです。

藤井明子 小児科専門医 小児神経専門医 てんかん専門医 どんぐり発達クリニック院長

小児の緘黙と発達障害の関連は？

小児の緘黙（特に「場面緘黙症」）と発達障害には**密接な関連性**があることが、近年の研究や臨床現場で明らかになってきています。

【緘黙と発達障害の関連性】

○医学的分類

場面緘黙症は不安症（不安障害）に分類されており、医学的には発達障害とは別のカテゴリーです。しかし、教育や福祉の分野では**発達障害者支援法の対象**とされ、特別支援教育の対象にもなっています。

○併存率と傾向

場面緘黙児の約68.5%が発達障害や発達遅滞を併存しているという報告があります。

併存しやすい発達障害には以下が含まれます：

- 自閉症スペクトラム障害（ASD）
- 注意欠陥多動性障害（ADHD）
- 学習障害（LD）
- 発達性協調運動障害（DCD）
- 言語障害や軽度知的障害

○共通する気質

ASDの子どもは「場の空気を読む」ことが苦手で、社会的場面で強い不安を感じやすい。**緘黙児も「話すことへの不安」が強く、不安傾向や感受性の高さ**が共通する特徴です。

緘黙児のまとめ

項目	内容
医学的分類	不安症（発達障害とは別）
教育・福祉的扱い	発達障害者支援法の対象
併存率	約68.5%が発達障害を併存
併存しやすい障害	ASD、ADHD、LD、DCDなど
支援のポイント	緘黙 + 発達特性への対応が必要

緘黙児は診察時に話せないため、発達障害の診断が難しいことがあります。
発達障害との関連があるからこそ、緘黙の子どもには多面的な理解と支援が求められます。

調査は02年から10年ごとに実施し、今回が3回目。公立の小中学生と高校生約8万8500人を抽出し、学習や対人関係で困難を抱える子どもの数を集計した。医学的な診断基準を参考にした質問項目に担任教員らが答える形で判断した。回答率は84.6%（約7万4900人）だった。